

my sweet house

owner's interview

vol.11

owner
Sさま

アンティークの器として、 デコのプロヴァンス。



アンティークと出会い、 運命は動きだす。

2015年10月、Sさまファミリーは新居に引っ越しました。真新しいのに、長い歳月を住み継いできたようなあたたかみがあります。それもそのはず、室内の至るところにアンティークのインテリアや雑貨が設えられているのですから。「行きつけの店で扱っていたアンティークの雑貨に惹かれて集めるようになって、いつのまにかコレクションが増えました」と、ご主人はアンティークとのなれそめを話してくれました。「前に住んでいたのはありふれたアパートでしたが、部屋の中はアンティークでいっぱいでした」と、奥さまは明かします。



プロヴァンスに一目惚れ、 理想へ走りだす。

3年ほど前のある日、Sさまは、たまたまフェイスブックでピアスのオープンハウス情報を知りました。見るだけのつもりで出かけた会場は、インターデコハウスの「スパニッシュ」。でもそこで、「プロヴァンス」と運命の出会いを果たします。「プロヴァンスのパンフレットがあって、表紙の写真を見て一目惚れしました」とご主人。コレクションしているアンティークにふさわしい家だと思ったそうです。スタッフとの会話もはずみ、予定はまだなかったけれど、ほぼ即決で家を建てることを決めたと、心境を語ってくれました。

愛するランプについて、 熱く語りあう。

ご主人の趣味は、アンティークに留まりません。照明器具、特につり下げランプが好き。インターネットで調べては、少しずつ買いそろえたそうです。ピアスとの打ち合わせを重ねるなかで、「コーディネーターの鈴木さんと同じ学年だということがわかり、話しやすかったこともあって、いろいろと相談しました。プロだから知識も豊富だし、楽しかったですね」と、当時は振り返ります。照明やインテリア雑貨は、季節ごとに変えているというご主人。「模様替えて、四季の移り変わりを楽しんでいます」

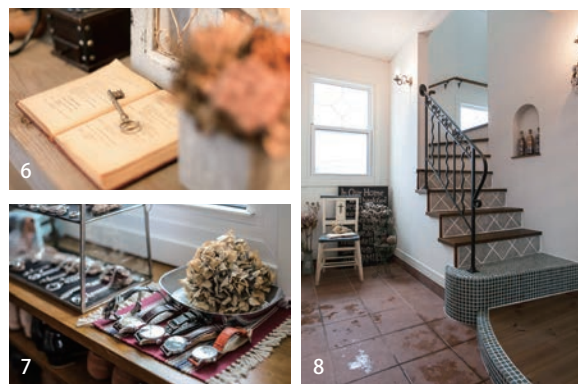
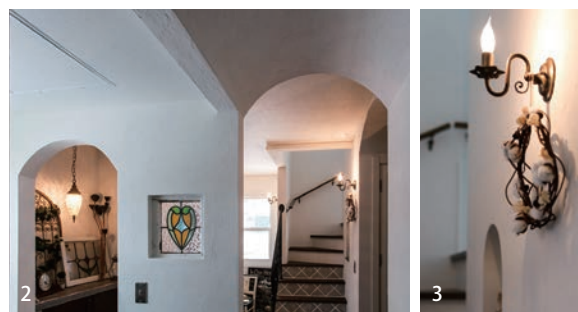
写真ではわからない、 会いに行ってみる。

Sさまご夫婦は、オープンハウスではなく、「プロヴァンス」に住むオーナーさまに会いに行きました。「実物はやはり違います。漆喰やタイルは質感がわかり、写真で見たとき以上にいいなあと思いました」。また、実際に生活している人の話が聞けたことも、家の仕様を決めるうえで役に立ったようです。自宅の工事現場にも足を運びました。「大工さんと話をし、わがままだを聞いていただきました。大きすぎるかも…と言っていた透明のスタンドグラスも、壁にぴったりはめ込んでくれました」。ピアスとは相性が良かったと、おふたりは微笑みます。



コーディネーター鈴木が語るSさま邸

Sさまがお持ちだった雑貨のセンスの良さ！これを活かすべく、一緒にコーディネートしたのをよく覚えています。特にリビング入口の建具がお気に入り♪お客さまの好きと私の好きが合ったときがたまりません！



1.天井に古材を入れて、キッチン・ダイニング・リビングを壁で仕切らず広さを出した。美しい円弧を描くキッチンのカウンターは、オープンハウスで見取り入れたという2.「ちょっとアーチが多すぎるのではと指摘されましたが、つくってもらいました」と、ご主人は笑う 3.4.いろいろなタイプの照明が、家をやわらかに灯す 5.ご主人がコレクションしたスタンドグラスは、壁に2枚、ドアに1枚使用した。それ以外のものも室内を飾っている 6.7.ダイニングやシューズクローゼットなど家のあちこちに、ギャラリーと呼ぶにふさわしいスペースがある 8.塗り壁、彩りを添えるタイル、アイアンの手すりなど「プロヴァンス」らしさが見られるエントランスと階段

今回のsweet houseは <インターデコハウス> INTER DÉCO HAUS

このブランドのコンセプトは、「わたしらしく」な家づくり。好きなものに囲まれて暮らせば毎日があわせと考え、好きを基準に空間をつくっていきます。かわいらしくデコラティブな家を理想としている方に好まれています。



Own Style

03 テーラードコーヒー

産地の個性が際立つコーヒー。

この世界には、愛情を持って生み出され、それ故に、人を幸福にするものがあります。テーラードコーヒーもその一つ。日本ではまだ珍しいスペシャルティコーヒー自家焙煎店です。

地理的な条件や気候によって個性が出るコーヒー豆。世界共通の指標をもとに、風味「トロピカルフルーツ/ブルー」、甘さ「ミルクチョコレート」、質感「ミルキー」など言葉で示され、コーヒーのプロフィールとなるそうです。プロフィールどおりの味であれば「豆の出来が良い」、外れていると「不作」と評価されるという厳しさ。だからこそ、個性が守られるのでしょう。日本で初めてコーヒーが飲まれた街の一つ、函館で、日々の暮らしに寄り添ってほしいコーヒー豆です。



オーナー夫人の明石瞳さん。ご主人の直之さんと4年前に店を開いた。「厳選した高品質の豆だけを仕入れているので、いつも同じ豆が必ずあるとはかぎりません。さまざまなコーヒーを味わっていただけたら嬉しいです」



Tailored Coffee
函館市本町7-13 (行啓通り)
TEL. 0138-83-8306
営業時間 / 9:30~19:00 定休日 / 木曜
※2017年4月、シエスタハコダテ地下1階にオープンした2号店「テーラードコーヒー ブリュワーズ」はカフェあり

「あなたにピッタリなコーヒーを仕立てあげたい」との思いで、焙煎している



ハコダテノ建テモノ

hakodate architecture spot

優れた価値を認められた建物で、話に花を咲かせて、湯に浸かる。

函館の風景をつくっている建築物をマニアックに調査する！
今回は、「大正湯」、お話は女将の小武典子さんです。

ピンクの壁が印象的な銭湯「大正湯」。建てたのは誰ですか？

設計も施工も野村竹松と聞いています。野村さんは、この近所に住んでいた大工の棟梁で、祖父の知り合い。「大正湯」を改築するとき、依頼したそうです。祖父は、もともと北洋漁業の船に乗っていました。漁師ではなく船大工。船の保守や修理のため、漁に同行したといいます。髪結いをしながら留守を守っていた祖母のことで、自分の引退後の身の振り方を考えて、大正3(1914)年、「大正湯」を始めました。近くにあった銭湯の権利を買い取り、建物を移築したそうです。昭和2(1927)年9月、改築した現在の建物が竣工。当時の壁は、緑がかったグレーで、戦後になって、明るい色がいいとベージュに塗り替えたということです。父が後を継いでから、ピンクになりました。

建物の見どころはどこですか？

大正湯は、函館市の景観形成指定建築物に指定されています。初代の祖父がまだ船大工だったとき、ロシアのカムチャツカによく寄港していたらしく、そこで見た建物を見本としたようです。番台、男湯と女湯を仕切る壁など、館内も多くは当時のまま。子どものころは、脱衣所でよく遊びました。床だけは修理しましたが、ほとんど変わっていません。大鏡も古いもの。昭和初期、大きな鏡をつくる技術が日本にはなくて、これは舶来品だと聞いています。浴場の天井は木。これも当時のままです。もともとは壁も木でしたが、湿気で傷み、タイルに変えました。壊れたところを修理しながら、使っています。

大正湯

「函館タイプ」といわれる上下和洋折衷型の銭湯。地元の人たちの社交場となっている
■営業時間 / 15:00~21:00 (土曜・日曜は20:00まで) ■定休日 / 月曜・金曜 ■入浴料 / 440円・小学生140円・乳幼児70円 ■電話番号 / 0138-22-8231 ■アクセス / 函館市弥生町14-9 (市電・函館どつく前電停下車、徒歩5分)

1. 番台に座る女将の小武さんは、2009年に三代目を継いだ。壁の向こうが女湯 2. 館内は、いまや珍しくなった品々が残る 3. 20年ほど前、浴場の壁を改修したとき、ステンドグラスを施した 4. 蛇口やタイルからもレトロな雰囲気を感じられる 5. 壁に掛かるホーロー看板は、譲ってほしいと訪ねてくるマニアもいるのだとか 6. 脱衣所の片隅の壁には、約90年の歴史を誇る大鏡がある 7. 金属製の傘立て 8. 板を水平に張った外壁、三角形の切妻破風、白い縦長窓など、見どころが多い



ビアスのスタッフ日誌

入社1か月の新人ふたりが記す
仕事のあれこれ、ビアスのあれこれ。

3月4日(日) | 曇り

入社してほぼ1か月。前職も住宅営業で、ビアスはおしゃれな会社と認識していました。おしゃれとは無縁な自分には合わないと思ったけど、仕事内容が面白そうだったから、まあいいかと求人に応募してみたら、採用されましてね。もう何年も在籍しているみたいに、初日からピアスになじみました。マイホームを検討している方々のためにも、「コーディネートしたい」が口癖の大河原さんのためにも、今日も張り切ろう。



ピアスは、2月から商品ブランドごとのチーム編成になった。COZYチームは、リーダーの幅崎(中央)、大河原(左)、昨年の新人・稲荷山大地の3名体制



Nobuhide Habasaki
ホームアドバイザー(営業)
幅崎 信秀

Natsumi Okawara



ホームコーディネーター
大河原 夏海

3月5日(月) | 雪

幅崎さんとは数日違いで入社した同期です。専門学校で建築を学び、新卒で入った前の会社で、コーディネーターとして配属されました。この仕事の面白さは、同じ間取りでも同じ家にはならないこと。お客さまのご希望に応えるべく、いろいろなコーディネートに挑戦してきました。ピアスは、楽しい以上に面白い会社です。求められることの難易度は高い。でも、やり遂げると成長できているのがうれしい。早くCOZYのコーディネートをしたいです!

みさおの玉手箱

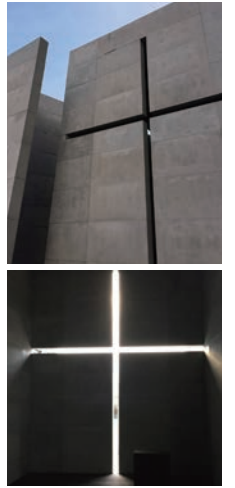
今回の展覧会
安藤忠雄展「挑戦」
(国立新美術館)

安藤忠雄の熱量に圧倒され、
人間性に魅了される

コンクリート打ちっ放しと自然光をじらして魅せる、安藤忠雄。これまでの業績を彼自身が総括した建築展。初期からの作品、事務所の再現、各種プロジェクトのスケッチや設計図、巨大で精巧な模型群…。私の鑑賞史上最高レベルです!

ハイライトは「光の教会」実物大レプリカ! 大きなコンクリートの壁に十字にくり抜いた細い隙間。ここから入る光と風は鳥肌モノ! 安藤建築の真髄を五感で感じさせる最強の展示物でした。音声ガイドも最高。大阪弁丸出しの本人がしゃべりまくる。低予算への愚痴、自身の失敗、開き直り…。会場内ではクスクス笑いが。公式図録は320ページ1,980円。1冊ずつに直筆サインがあり、安藤の人柄を感じました。

2か月半の期間中、3度鑑賞。行くと、安藤の不屈の闘志とエネルギーに圧倒されました。「人間にとって本当の幸せは光の下にいる事ではない。その光を遠く見据えて、それに向かって懸命に走っている無我夢中の時間の中にこそ、人生の充実があると思う」。タフなオヤジ…素敵です。(専務/森山 操)



展示物として許可が下りず、「増築」扱いになった「光の教会」

ビアスの新ブランド誕生

Norm Core House

広々とした空間に家族の未来を描く。



オープンハウス開催中

「究極のノーマル、至高のシンプル。」をコンセプトとした Norm Core House (NCH)。素材の良いシンプルなアイテムを取りそろえた、ビアスのオリジナルブランドです。どれをどうコーディネートするのか。そこは、お客さまの暮らし方が出るところ。ライフスタイルに合わせて住みこなすNCHです。記念すべき1棟目のKさま邸のテーマは、「わくわくする家」。ベーシックなプロトタイプ(通常でいう間取り)に、ウッドデッキと離れを組み合わせるカスタマイズしました。夏に向けて外構の整備も始まり、笑顔の絶えない家族の夢は広がるばかりです。



まだむ・マカロンの
今日もひとりごと。

Çava? お元気? 雪の舞う桜が丘通のアンティキテに、今金町のMadamesが初来店。たまたま前を通って「すてきなお店!」と気になって寄ってくださったらしいの♡今日も飲み物を用意してお待ちしているわ〜。

この時季にオススメ! 柚子ジンジャー 450円

OPEN 11~19時、火曜・水曜休み



あおしま社長の

ことのは

代表取締役 社長
青島 康夫

一人も欠くべからざる、それがチーム。

お客さまが安心して家を建てられるように、ビアスのいまを知ってほしい。その思いでkotonohaを創刊してから3年が経ちました。私たちは家づくりのプロですが、広報紙づくりはほぼ素人。発行を続けられたのは、デザインや写真のプロと組んだkotonohaチームがあってこそ。今年2月からは、社内でもチーム制を導入しました。昨今話題の働き方改革を突き詰めると「個人」に行きつく。個人が強みを生

かして自分のポジションで力を発揮する、弱点を補い合いながらパフォーマンスを上げる。それを可能にするのはチームワークです。一人でも欠けたら成り立たない。それがチームです。kotonoha4巡目のスタートとなる次号から、私がさまざまな人たちに会いに行き「チームづくり」をテーマに対談します。さて、どんな「ことのは」が聞こえてくるでしょうか。



株式会社 ビアス

www.beus.jp

TEL 0120-56-0188

〒042-0942 函館市柏木町1-12

TEL0138-56-0555 FAX0138-56-0777

INTER DÉCO HAUS COZY

b.i.v HOMES b-maison

Norm Core House